



UT・CAREER

WITH



BUILDS

キャリアリーチ

Career Reach

for High Deviation University Student meets company

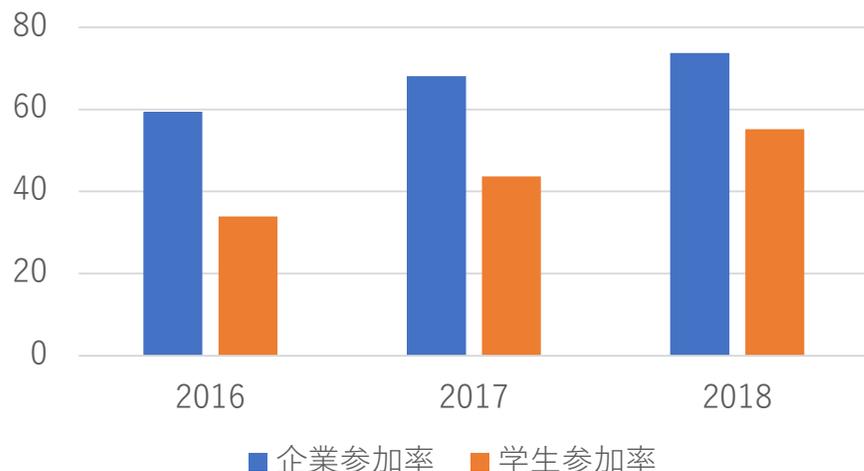
高学歴人材インターンシップ&新卒イベント

インターンシップ市場と必要性

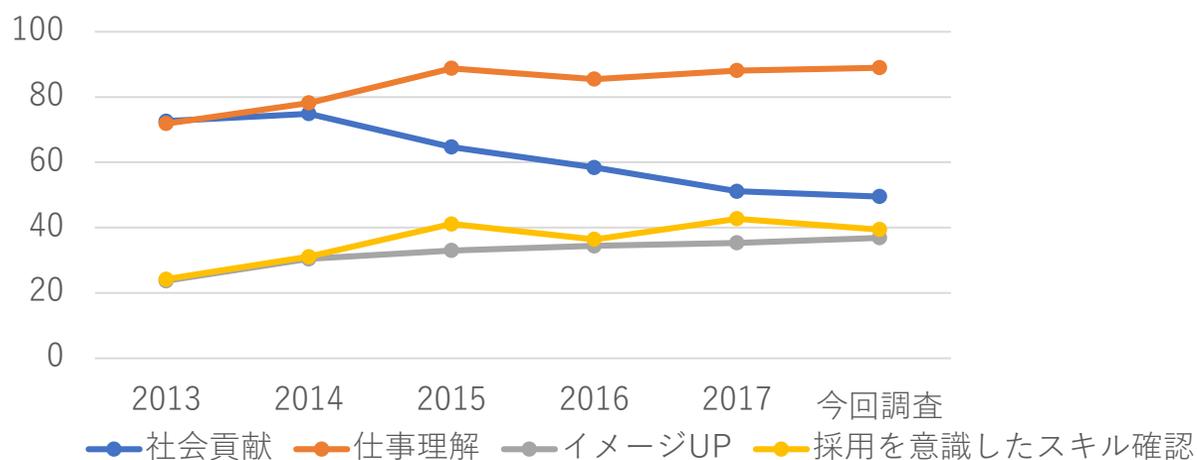
【インターンシップの実施状況】 <企業>

- ・ 新卒採用を実施している企業の内2017年度にインターンシップを実施した（予定を含む）企業は68.1%と、2016年度の59.4%より8.7ポイント増加した。
また、2018年度に実施予定の企業は73.7%と、2017年度よりも5.6ポイント増加の見通しである。
- ・ 2013年度インターンシップ実施目的として学生に対し「自社を含め業界・仕事の理解の促進」と「就業体験機会を提供することでの社会貢献」が企業の目的の多くを占めていたが「就業体験機会を提供することでの社会貢献」は2014年度より減少傾向にあり各企業が内定・採用を目的にインターンシップ実施の傾向が強くなっている。

国内企業、学生インターン実施推移



インターン実施目的別推移

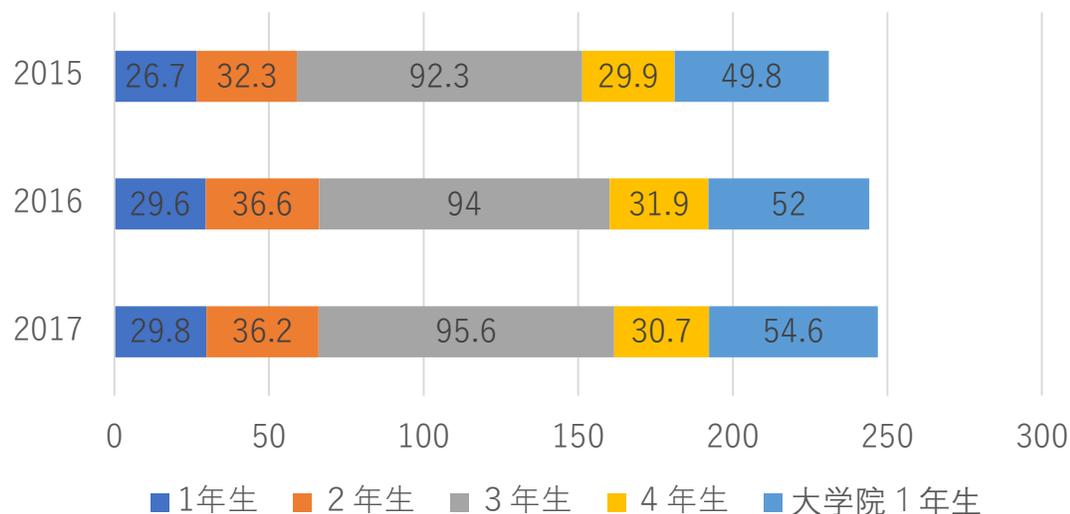


インターンシップ市場と必要性

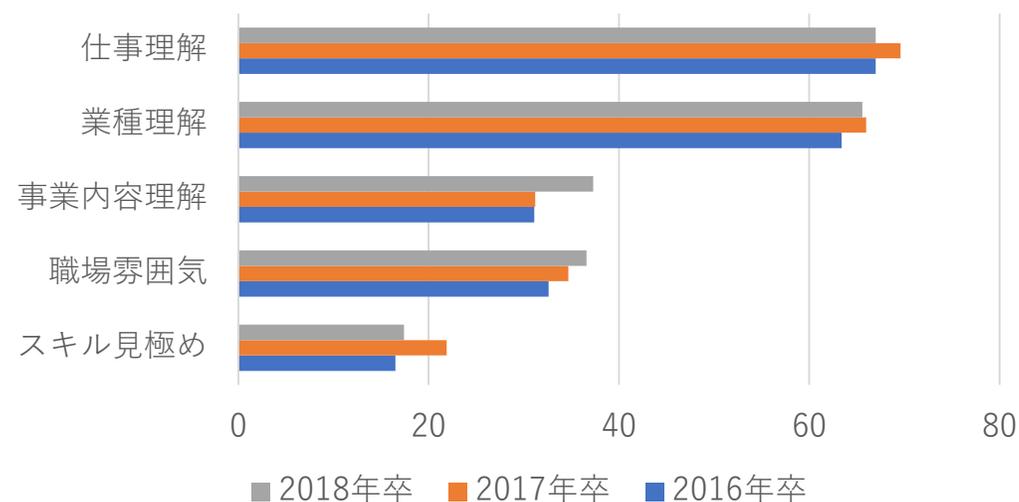
【インターンシップ全体の実施状況】 <学生>

- ・2018年卒業生の内、インターンシップ参加者は55.2%と、2017年度より11.5ポイント増加している。
- ・企業側の実施対象は短期インターンシップ実施企業が多いことから「大学3年生」が95.6%と突出して高く次いで「大学院生1年生」の54.6%であったが、採用の早期化・多様化が進み、成長志向が高い学生を中心に1年生・2年生からの長期インターンシップ参加・実施は年々増加している。
- ・参加目的を見ると全体では「仕事理解」(67.0%)「業界理解」(65.6%)と高くインターンシップを行うことが希望職種、業界選定の参考となっている。

インターンシップ実施対象



インターンシップ参加目的



インターシップ期間について

【インターンシップ期間】

短期インターンシップと長期インターンシップに大きく分けられ、学生・企業共に参加期間・実施期間を目的によって選択しており、実施においては目的に沿った期間選定が必須となっている。

【短期インターンシップ参加・実施目的】

最短1Day~1Week・2Weekの参加が可能で、企業、学生の負担が軽く大手企業を中心に年々導入企業は増加しており、学生の参加率も約6割を超え、参加する事が常識になっている。

学生の短期インターンの参加は平均4社~5社と多く、企業側も複数回の実施やインターン実施に伴い設計や集客、運営に多くの項数が必要となってきた。

【長期インターンシップ参加・実施目的】

数か月~1年以上に及ぶインターンシップとなり、参加する学生は短期に比べ少ないが、インターンシップ参加目的で比較すると成長志向が強い学生が多く、またインターンシップを採用・内定を目的に参加している傾向が短期に比べ高くなっている。

企業メリットとして、就活解禁前に目標意識の高い学生の「青田買い」ができ、低コストで、ポテンシャルの高い人材を雇え、「良いインターン先」のリファラル効果で企業のPRが可能。

また、長期実施を行い、内定・採用後の相互のミスマッチが軽減でき採用コストの低減につながる。

「優秀な人材を求める企業」



キャリア



「未来の自分にワクワクしている学生」

目的

【3年以内のミスマッチの低減】

- ・2018年今春卒業生の4月時点の就職率は98%と非常に高く推移している一方で、大卒で就職し3年以内に離職した人の割合（離職率）は5年続けて30%前半で推移。
更に企業規模別で見ると、従業員千人以上の場合は20%半ばで推移しているが、29人以下の事業所は50%を超え、事業所の規模が少なくなるほど、離職率は高まっている。
長期インターンシップを実施する事で、双方の理解を深め、就職者の安定した活躍を目指し、参加企業の長期的な採用コスト低減、収益拡大に貢献していく。

【中小・ベンチャー企業での優秀人材確保】

- ・売り手市場といわれる中で、中小・ベンチャー企業においては「人員」の確保は出来るが「優秀な人材」の応募がないと言った声は多く、新卒イベント等に出向いてみても学生との接点は短く浅い、求める人材は見つからない、こんな現状を改善すべく、キャリアでは中小・ベンチャー企業の就職に興味を持った高学歴人材のみを集めた、少数・少企業での新卒イベントを実施し、参加企業が効果的かつじっくりと学生にアプローチできる機会を提供していく。

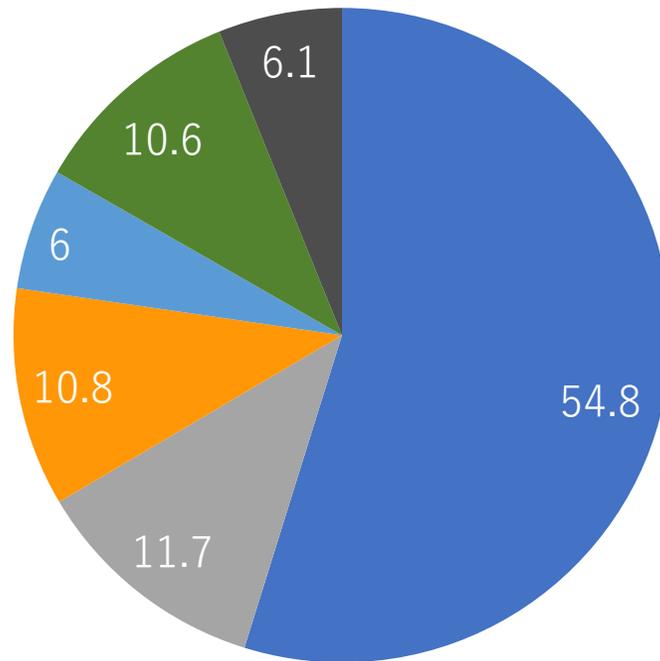
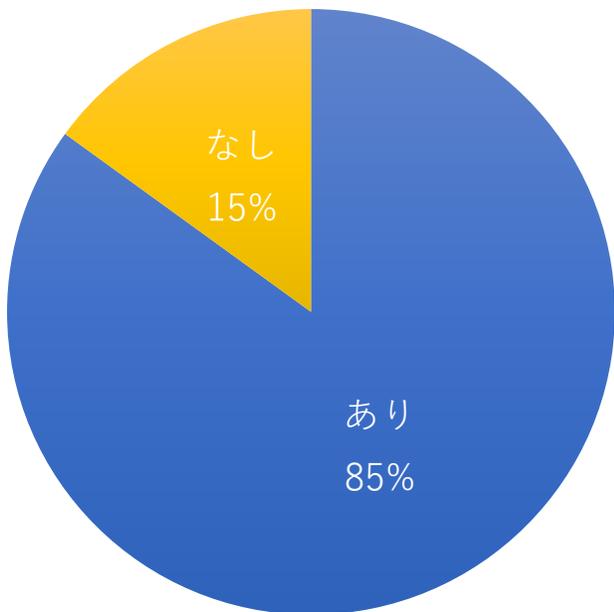
【短期インターン実施に伴う企業負担減】

- ・短期インターン実施に伴い企業は都度現場の調整を行い、また複数回の実施を行っている企業が多くまた、学生の参加企業の増から、他企業との差別化が図れず、多くの項数を掛け準備・実施はしたが採用に繋がらないと言った声もお聞きします。
長期のインターンを実施する事で、現場の負担、学生の企業理解、良いインターン先のリファラル効果も期待でき、紹介からのインターン・説明会誘致も可能かと考えております。

キャリア誘致学生の特徴

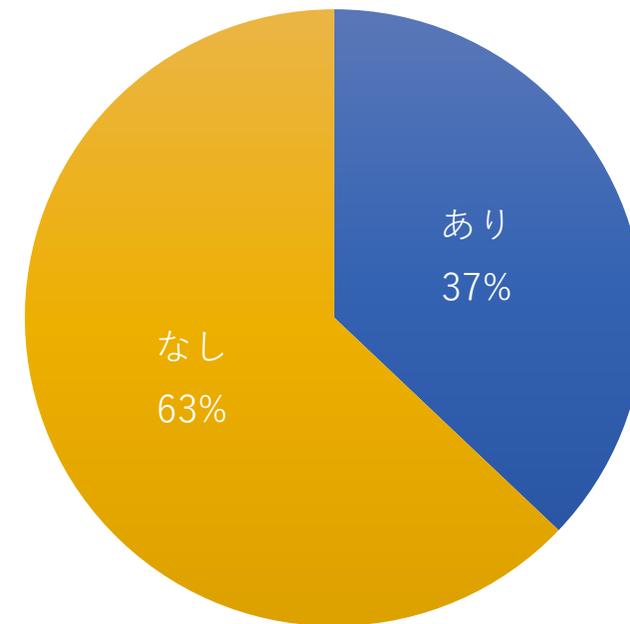
MARCH以上限定の高学歴層のみが参加者

登録550名中85%が中小企業ベンチャーに興味あり。



東京大学	55%
青山学院大学	12%
慶應義塾大学	11%
早稲田大学	6%
その他国立大	11%
その他私大	6%

登録の37%の学生がプログラミング経験あり。



学生向けキャリアチフライヤー



キャリアチ

あの企業は？インターンって？
高学歴学生対象の企業マッチングイベント。
インターンへの関心はあるけどその先へ踏み出せずに迷っているあなたに、このイベントに参加して社会への一步を踏み出しませんか。

9月6日・19日・27日
19時～21時

東大早慶 GMARCH など1・2年生を中心とした大学生限定。



まとめ

【キャリアチ実施背景】

キャリアチでは優秀な人材を求める企業と、自分の未来にワクワクしている学生をイベントを通じマッチングする事で、優秀人材への効果的かつ確実なアプローチをもたらし、就活に悩む学生の不安を取り除き、内定・採用後のミスマッチを無くすことで、企業・学生に安心と安定した採用・就職を提供出来ると考えております。

また、中小・ベンチャー企業での安心と安定した採用・就職が実現すれば、今後も続くであろう売り手市場と言われる新卒採用において、自然と中小・ベンチャー企業が選択肢の一つとなり企業が成長し、学生の就職活動・企業、業界選定に新しい選択肢が増え、更なる安心と安定につながって行くと確信しております。

長期インターンシップ実施は受け入れる企業・現場の負担があるのは事実です。

しかし、インターンシップを体験した学生の役6割が参加企業・業界に入社を決めており、5年後の定着率もインターンシップ経験者は未経験者と比べ高いのも事実です。

早期離職は企業にとって大きな負担を伴うと共に、中途採用等の二次的な負担も発生し、早期離職を解決することが、企業にとって重要な事は明白です。

実施に伴いましては、弊社も徹底伴走を致しますので、ご参加のほどよろしくごお願い申し上げます。